

■ 平成29年8月23日 厚生委員会県内調査

1 新奈良県総合医療センター建設予定地（奈良市七条西町2丁目地内）

【調査目的】新奈良県総合医療センター建設予定地の概要について

【調査概要】

<説明の概要>

●整備の経緯

- ・平成23年5月に「新県立奈良病院 基本構想・基本計画」を策定し、同年10月に建築・造成工事基本設計に着手。
- ・平成25年10月から造成工事、平成27年3月から建築工事に着手。
- ・平成29年8月23日現在の進捗率は、約87パーセントとなっている。
- ・平成29年12月には建築・造成工事を完成させるべく整備を進めているところ。

●新病院の整備のポイント

- ・病室を全室南側に配置するなど、全国でも例の少ない取組を行っている。
- ・その他、外来待合をできる限り窓側に配置し、光庭を多く設けるなど、自然光を多く取り入れることで、患者と職員の環境に配慮した構造となっている。
- ・新病院がめざす以下3点の機能を充実させている。

①救急医療

1次救急から3次救急まで受入が可能な一体的救命救急センターの整備。

②がん医療

最新の放射線治療機器の設置のほか、PET検査室や化学療法室も拡充。

③周産期医療

高リスクの妊婦の出産も安心な集中治療室の機能と規模を拡大。

●建物の概要

- ・鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造で、大地震にも備えた免震構造である。
- ・地下1階・地上7階で、高さは24.9メートル、建築面積は約14,000平方メートル、延床面積は約64,000平方メートル、病床数は540床程度となっている。
- ・教育研修棟、外来・中央診療棟、病棟の大きく3棟からなる。

【教育研修棟】

研究室・図書室・講堂など。

【外来・中央診療棟】

受付・外来・救命救急センター・検査部・周産期センター・集中治療室・手術室など。
また、救急エレベーターを設置し、ヘリポートから救命救急センターまで直結して移動することが可能であり、迅速に措置に入ることができる。

【病棟】

病棟、レストランなど。

- ・病棟の東西に駐車場を確保。また、病棟入口に、路線バスやタクシー等で通院する人が乗り降りするスペースを配置している。

●救急医療体制の充実

- ・断らない救急を実現するため、以下の取組を行っている。

①救急車受入の一元化

- ・平成27年7月より、3次救急（救命救急センター）と2次救急（救急外来）の受入を救命救急センターに一元化。

②救急受入体制の強化

- ・救命救急センター長と救急科部長を新たに専任するなど、医師の増員に取り組み、現在は11名体制で運用している。

- ・救急外来を平成24年からは日勤帯で開設し、平成27年からは24時間体制に拡大するなど、体制の強化に取り組んでいる。
- ・以上のような取組の結果、平成26・27年は救急車搬送受入が月平均200台であったのが、平成28年、特に後半からは毎月300台から400台になるに至っている。

●新たな診療体制

- ・心臓血管外科や乳腺外科の開設、ICU・外来化学療法室・周産期医療・放射線治療の充実を行うなど、ニーズに応え、よりよい診療体制を築くため取り組んでいる。

●交通アクセス

- ・アクセス道路として、石木城線・枚方大和郡山線・城廻り線を整備中。
- ・路線バスについても、近鉄西ノ京駅・近鉄郡山駅・近鉄学園前駅から利用できるよう、路線の延伸や直通便の運行に向けて、協議を行っている。

【質疑応答】

Q 車で来院がメインになると思うが、駐車場の整備台数は何台くらいか。

A 現在、560台を予定している。

Q 太陽光パネルの役割について教えてほしい。

A 外部からの電源がシャットダウンした場合の非常電源として利用することを目的としている。当センターは災害時拠点病院になるので、1500キロワットの発電機を2台備え、全体の60パーセント以上をまかなうことができる体制を取っている。

Q 職員の駐車場はどれだけあるか。

A 相当数が必要と見込んでいるので、周辺地を借りて、約700台を確保する予定である。



2 香芝生喜病院（香芝市穴虫 3300 番地 3）

【調査目的】香芝生喜病院の概要について

【調査概要】

<説明の概要>

●理念

- ・安全で質の高い医療を効率良く提供し、人間愛を尊重した医療を目指す。

●基本方針

- ・地域医師会ならびに医療・介護・福祉施設と連携した医療を提供する。

- ・日々進化する医学の進歩に対応した医療を提供する。
- ・地域の人々が要望・納得する医療を提供し、地域の人に信頼・愛される医療機関を目指す。
- ・全ての医療行為に対して、患者への説明と同意を徹底する。
- ・医療安全、院内感染対策の徹底した医療機関を目指す。

●香芝生喜病院の概要

- ・平成29年4月1日に開院。
- ・病床数は241床の許可を受けているが、まずは151床からスタートしたところ。
- ・診療科目は、開院時は19科だったが、小児外科・神経内科・形成外科・救急科などを開設し、現在は22科となっている。
- ・2次救急告示医療機関に指定されている。10月からは、小児2次輪番病院や葛城地区休日診療所2次輪番への参加を予定している。
- ・診療時間は、月曜日から土曜日の9時から12時30分と、月曜日から金曜日の17時から19時としている。

●医療機能について

- ・MRIやCT、マンモグラフィ装置などを設置。また、検体検査だけでなく、超音波検査や心電図検査などの生理検査も自院で行っている。
- ・医療法人 藤井会としては初めて、臨床工学技士が医療機器の保守点検および管理を行うMEセンターの設置を行っている。
- ・人工透析は外来だけでなく、入院透析にも対応している。合わせて30床まで対応が可能である。
- ・救急科は、専従医師として2名の常勤医師と非常勤医師という体制を取っている。

●職員体制について

- ・4月スタート時点で常勤255名、非常勤74名が働いている。
- ・組織としては、主に診療部門・看護部門・事務部門からなっている。その他、独立した部署として、感染対策室と医療安全室を院長直轄で運営している。
- ・日本高血圧学会指導医や日本外科学会指導医などの指導医、日本内科学会総合内科専門医・日本循環器学会循環器専門医などの専門医、日本内科学会認定内科医や日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医などの認定医の資格を持つ医師が在籍している。
- ・看護師には、感染管理や皮膚・排出ケア、認知症看護などの資格を持った認定看護師が在籍している。

●福利厚生などについて

- ・職員の福利厚生の一環として、24時間体制の院内保育園を開設している。
- ・医療法人藤井会として「循環障害を考える会」や「心臓病の未来を考える会」、また院内勉強会として「奈良県立医科大学 放射線医学教室講演会」など、さまざまな勉強会を開催し、職員の知識の向上に努めている。

●診療実績について

- ・外来延患者数は4月に1,427人でスタートし、7月で2,894人となっている。また入院延患者数は4月に872人だったが、7月では3,282人まで増加している。
- ・8月22日現在で、HCUが80%、療養病棟が74%、一般病棟が92.3%の稼働率となっている。
- ・手術件数は、4月に14件でスタートし、7月で29件となっている。今後も積極的に受入を行っていく予定である。

●救急の実績について

- ・救急自動車による搬送の患者と、通常の診療時間外に自分で来院した患者を救急患者数としてカウントしている。

- ・月に100件から150件という見込みを立てていたが、4月から259件の実績であり、開院当初から予想以上に救急のニーズが高い印象である。
- ・4月からおおむね順調に救急実績は増加しており、近隣地区から徐々に認識されつつあると考えている。
- ・救急患者の来院方法は、約6割が救急自動車での搬送、残り4割が時間外のウォークインとなっている。
- ・救急患者が来院する時間帯を、曜日に関係なく、9時から19時までの診療時間帯と、それ以外の夜間帯に分けると、夜間帯の方が約1.2倍多くなっている。
- ・奈良県広域消防組合の管轄別に比べると、香芝消防署が37%で最も多く、次いで広陵消防署が15%、高田消防署が14%などとなっている。また、県外からの受入要請もある。
- ・今後は奈良県で導入された救急医療管制支援システム（e-MATCH）を利用し、救急の受入を断ることがないような体制の整備に取り組んでいく予定である。

【質疑応答】

Q 院内保育園の運用状況について教えてほしい。

A 開院当初は6名でスタートし、現在はレギュラーで8名となっている。夏休み中は学童保育の受入も行っており、合わせて15名程度まで受入可能である。アクセス面から、朝から利用する人だけとなっている。

Q 地域医療連携室のスタッフの状況について教えてほしい。

A 室長、専従の看護師1名、社会福祉士1名、MSW（メディカルソーシャルワーカー）が1名、事務員1名の5名で運営している。開院当初は、全スタッフが前方支援業務と後方支援業務の両方を行っていたが、現在は退院支援や在宅支援を看護師・介護福祉士が、近隣の開業医からの受入調整などを室長・事務員が対応するように運用を変更してきている。

Q 今期の決算はどのようなと見込んでいるか。

A 建物の建設費など、初期投資がとても大きいので、黒字決算となるには2～3年はかかると見込んでいる。

Q 小児科でのワクチン投与の状況について教えてほしい。

A ワクチンについては、なかなか手に入らない状況が続いているが、当院としても積極的に行っていきたいと考えているので、香芝市と協議を行うなど、ワクチン投与の体制づくりに向けて取り組んでいる。

